



小さな穴をめぐる争奪戦

R18
ADULT
ONLY

好きな女の子を
先輩から奪い合う
共72P
ゴムゴム



鈴木奈々さんって
ほんと綺麗だよな。

見た目はクールな
美人って感じだけど

でも俺は知ってる
あいつ、本当は
すごく優しいんだ

なあ海！
さっさと告白
しちゃえよ

な、何言っ
てるんだよ変な
こと言うなって

変なことってなんだよ
鈴木さんみたいな美人
綺麗すぎて逆に誰も
近づけないんだよ

もしかしたら、
まだ処女かもよ

でも…

おいおい
やめろって

ほら、
見てみるよ

バスケット部の田中健一が
さっそく目を
つけてるみたいだぜ

聞いた話じゃ、あいつに
目をつけられた女は
最後みんなあいつの
玩具にされるらしいぞ



おい、友理
お前にちよつと
用がある

んっ
んっ
んっ
もう少し...!!
もう少し強く...!!

えっ...? な、
何の用ですか?

お前、俺を手伝え

...な、
何を?

俺は鈴木奈々
とやりたいんだ

こんな時に他の
女のこと考え
てるなんて



お前はまったく
恩知らずの女だ

俺以外に、お前の
その底なしの
性欲を満たせる
奴がいるのか？

ご、ごめんなさい
私が悪かった…

グズグズ
するな

ごめんなさい…♡

俺はそんなに
我慢できない

ふざけるな！

俺に逆らう気か！



だから
今日からは
毎日お前の中に
出してやる

もし孕みたくないなら
さっさと俺を手伝え

へへへへ…

わ、
わかりました……

ん……

俺、寝ちやつ
てたのか？

！

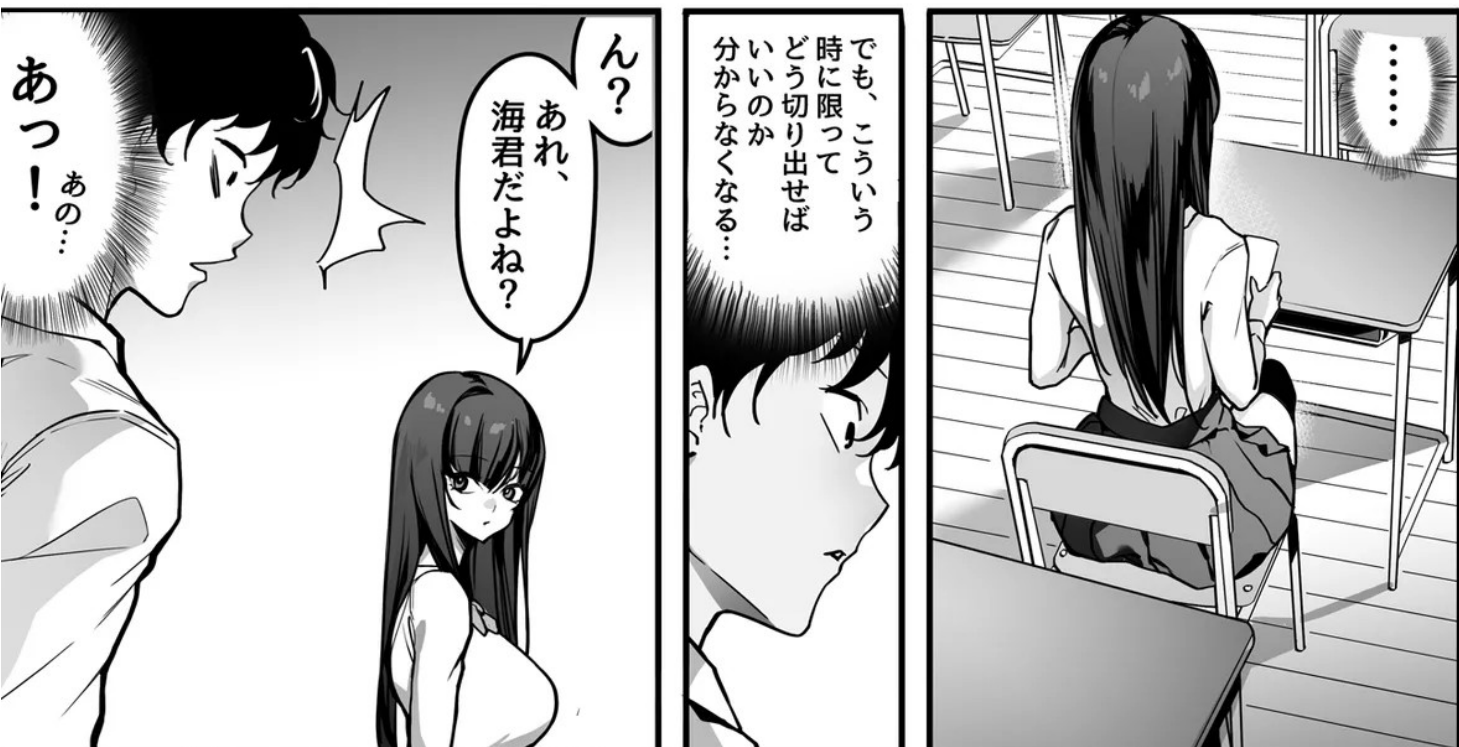
鈴木奈々だ……

このままだと
他の男に先を
越されちゃう

そんなの
いやだ！

こんな夢ずっと
見ていたい

まるで夢みたい
目を開けたら目の
前にいてしかも誰にも
邪魔されないなんて……





鈴木奈々の
笑顔…

ほんと、
可愛すぎる…



なんだよ!

奈々ちゃん
ここにいたんだ

ん?



やばい……
もう全然考えが
まとまらない

頭の中、真っ白だ



まったく!

私、ずっと
と探してたんだよ

友理ちゃん、
そうだったの?
私を探してるなんて
まったく知らな
かったよ



私と心が通じて
ないなんて
許さないぞー!

だから
お仕置きね!

あっ! やめて



うわ……
すごい
羨ましい

あんな風に
奈々さんの身体を
好きに触れるなんて

おい！
お前邪魔だよ



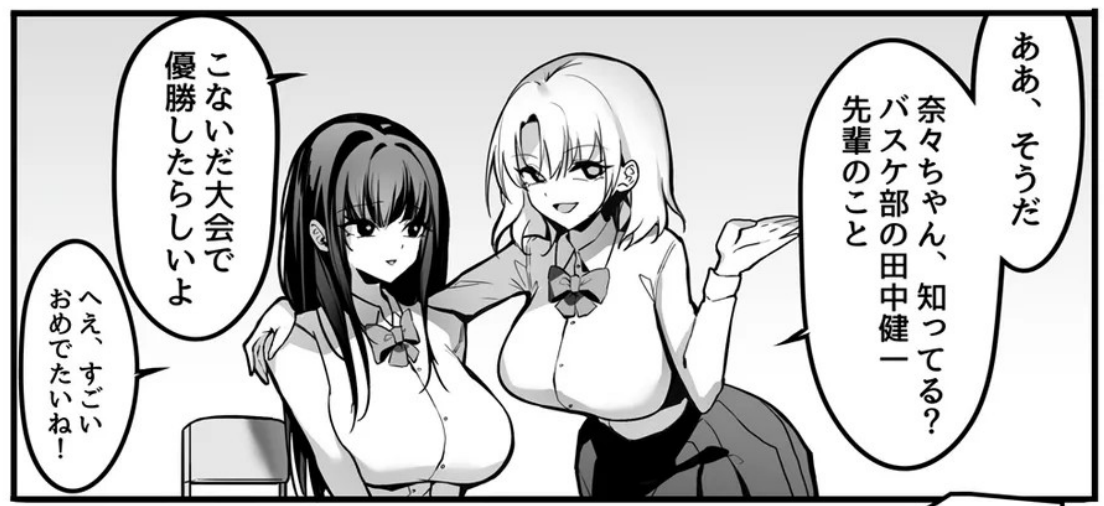
うわっ！
田中健一だ
怖っ……

す
すみません

だったらどけ
バカ野郎！



聞いた話じゃ、
あいつに目を
つけられた女は
最後みんなあいつ
の玩具にされる
らしい……



ああ、そうだ
奈々ちゃん、知ってる？
バスケット部の田中健一
先輩のこと

こないだ大会で
優勝したらしいよ

へえ、すごい
おめでたいね！



そんな
大したこと
じゃないって

ただの
小さな
大会だよ

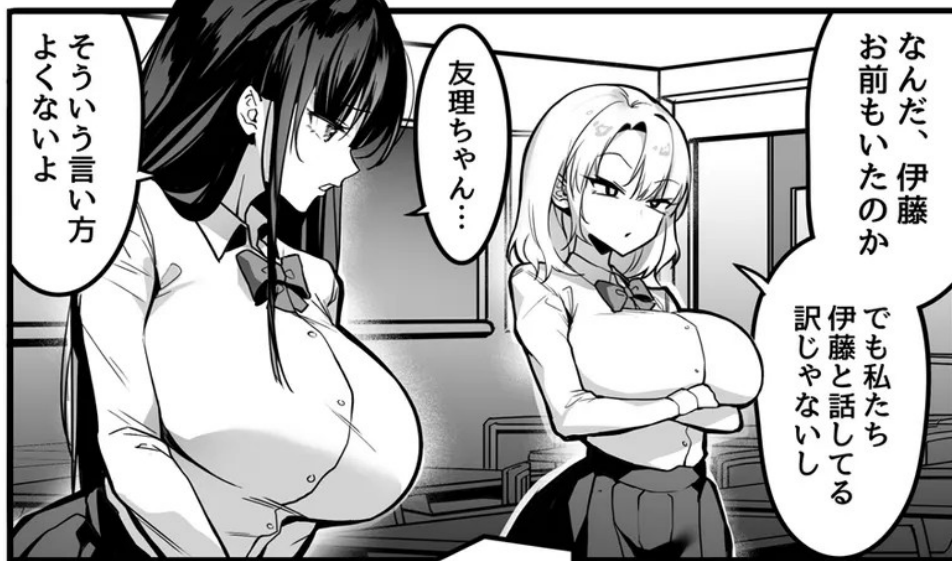
でも、
せっかくだし、
優勝祝い
をしようぜ

明後日の日曜
カラオケな

一緒に来ても
らえるかな？

あつ、
これって……

来いよ来いよ
みんなで行こうぜ





バカ野郎！

うん、
分かった！

じゃあ、日曜日の
午後5時に集合な



あっ！

おい、このバカ。
何してやがる？



バカ…

とにかく、
死にたくなかったら
バイトを理由にして

絶対に
来るんじゃねえぞ



俺の前に
顔を出すな



分かったな？

おい！さっきは
ただ鈴木の前で変な
空気にならないよう
にただただ

この集まりは
お前には関係ない

はい…



うっ…痛い…

もう絶対に
田中健一とは
関わらないよう
にしよう…

どうせ

あいつはもう
二度と現れない

そっちの準備は
どうだ？

バカ野郎！

そんな言い訳は
聞きたくない
とにかく、
早く準備しろ

この声…
田中健一の声だ

何としても
あの女を手に入れるんだ

あの薬を飲めば、
すぐに欲情して
抑えられなくなる…

それが
「春血丸」だ

とにかく、日曜の夜
までには決着をつける

必ず鈴木奈々を
俺のものにしてやる

へへへへ…

な、なに



日曜日

ごめんね、少し
遅れちゃった

俺も今来た
ところだよ

ガ
ラ
オ
ケ

ラ
ン
チ
営
業
中

わあ
すごいドリンク
の量だね

どれも美味し
そう！

そういえば、
伊藤君、まだ
来てないの？

あー残念な
んだけど…

あいつ、
なんかバイト
みたいで…

すみません



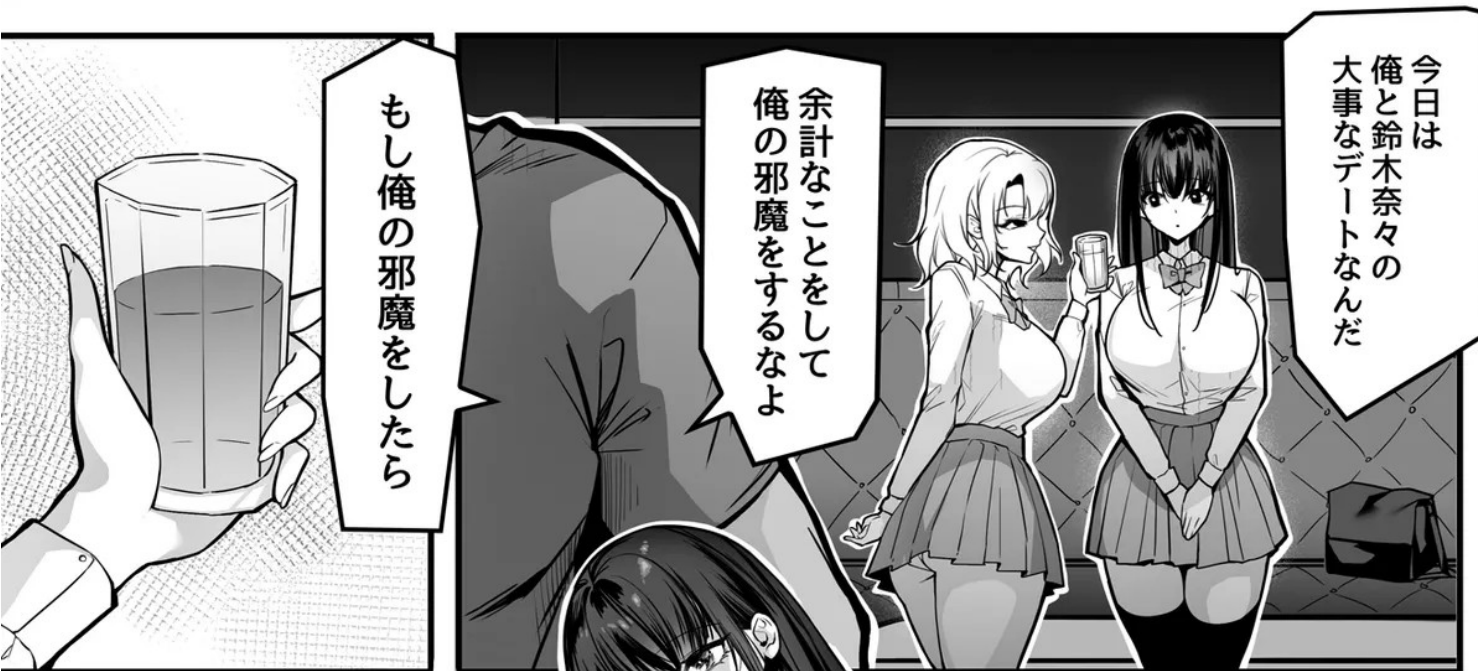


このバカ

お前本当に死にたいのか?!
それとも何か他に企みでもあるのか?

はは...

今から俺の言うことをよく聞け



今日は俺と鈴木奈々の大事なデートなんだ

余計なことをして俺の邪魔をするなよ

もし俺の邪魔をしたら



本当に殺してやるからな

おい!

まだ分からないのか?

あの...

分かったか?

それは...?

絶対にあの媚薬を
飲ませてやる

あれを飲めば、
すぐに欲情して
止まらなくな
るらしい

「春血丸」飲ん
だらやりたくて
たまらなくなる
薬だ

ま、
待って

待てっ！

あっ！

よし！
これで鈴木奈々
にも少しは
効くだろ

伊藤海
……！！

お前、俺の
貴重な「春血丸」を
無駄にしやがって……

おい……

ああー
うまい！

ごめんごめん
あまりにも喉が渴いてて





友理は本当に
いい女だ



あの子
さえいれば



どんな
場所でも

ふふっ



どんな
女でも



もっずぶ…



^^^



サッ

そういう
ムードに



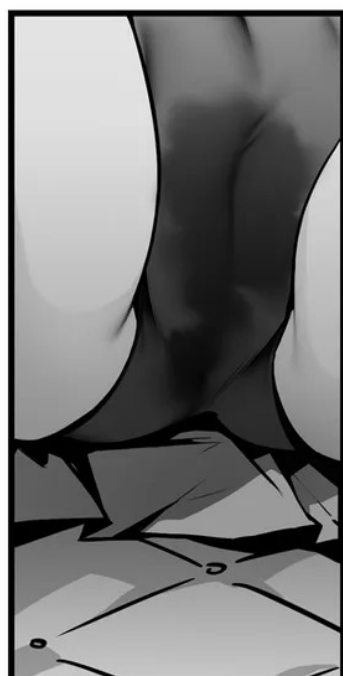
ゆ、友理ちゃん

だんだん濡れてきた…



んっ…





まさか！
鈴木奈々の
目の前で



田中健一のやつ
本当に卑劣だ！

でも…

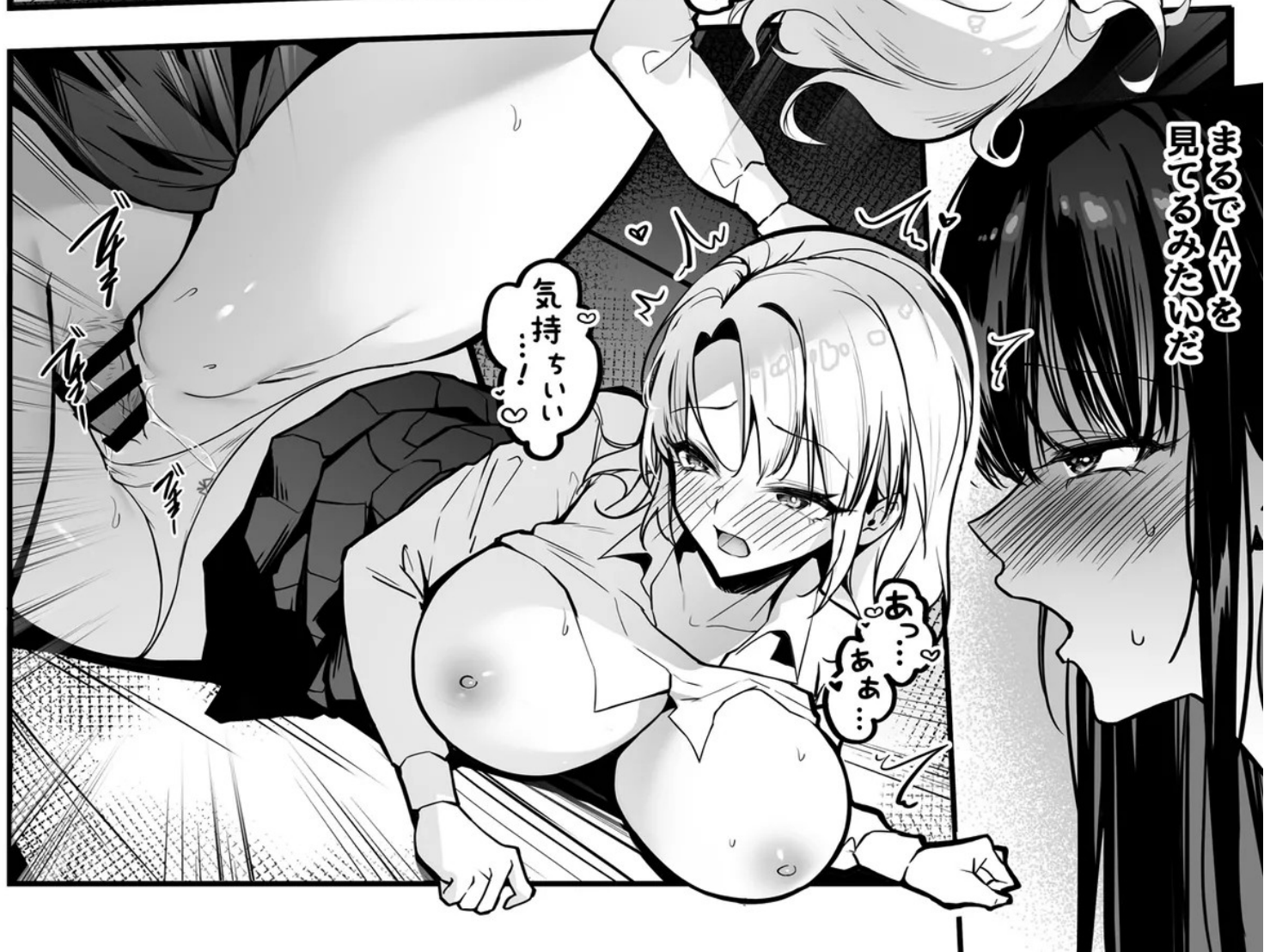
本当に
いやらしい…！

この光景……

あっ！

イチャッ
イチャッ
イチャッ







うっ…！俺の反応も
こんなに強いとは
やっぱり薬の効果か…

んっ！

あっ！

あっ！
んっ！

もっと
強くして！

気持ちいい！

あ…！
すごく
気持ちいい！

んっ

んっ
あっ



さすが「春血丸」
の効果だ鈴木奈々にも
だんだん反応してきた！

んっ…

んっ…

…

サッ！



んっ…！

んっ…

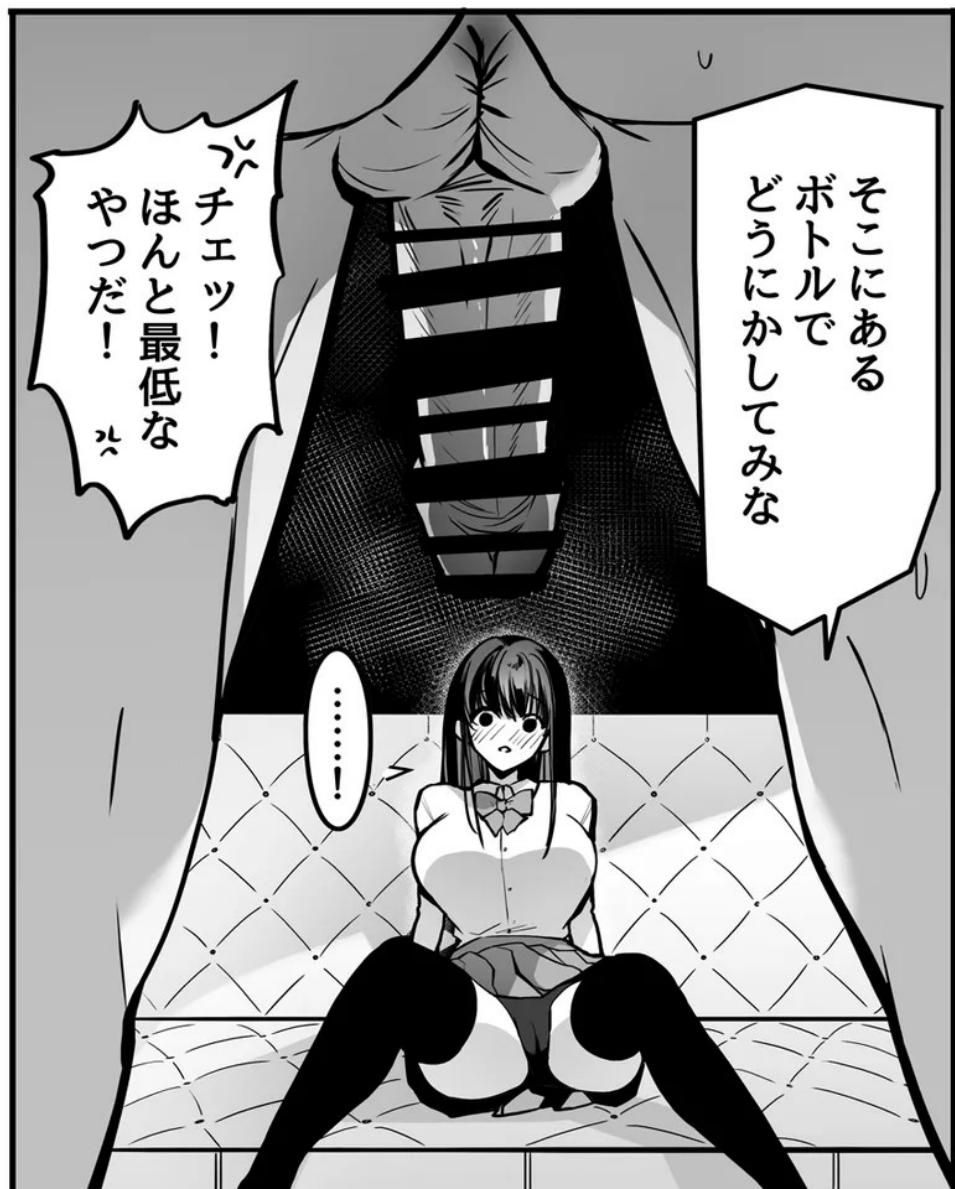
んっ…！

んっ！



そろそろ
頃合いだな

んっ…



奈々ちゃんって本当に美人だよね……

サッ

悪いな

君こそが俺の本当のお客さんだ



しっかりと
もてなさ
ないとな!

!



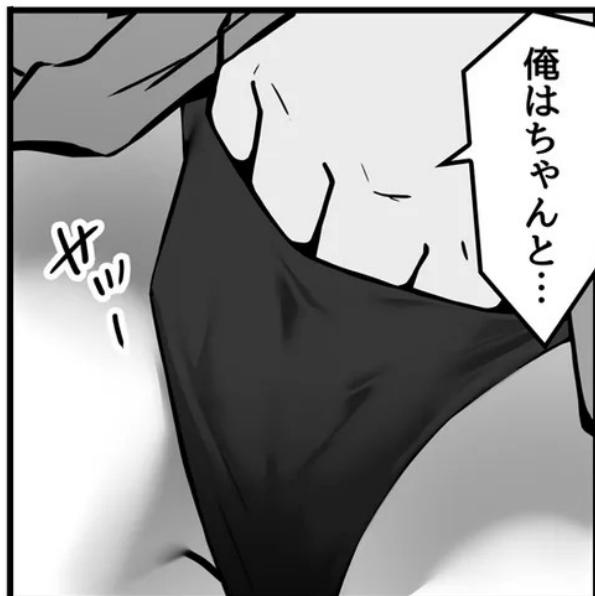
でも、心配するな

うん……



俺はちゃんと……

サッ

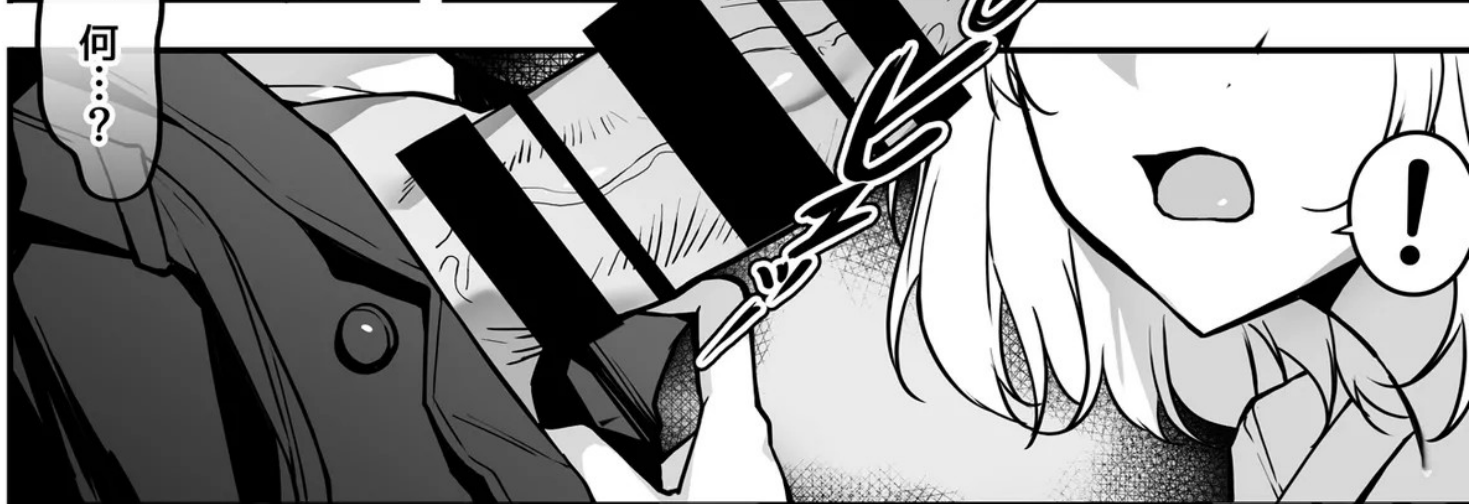


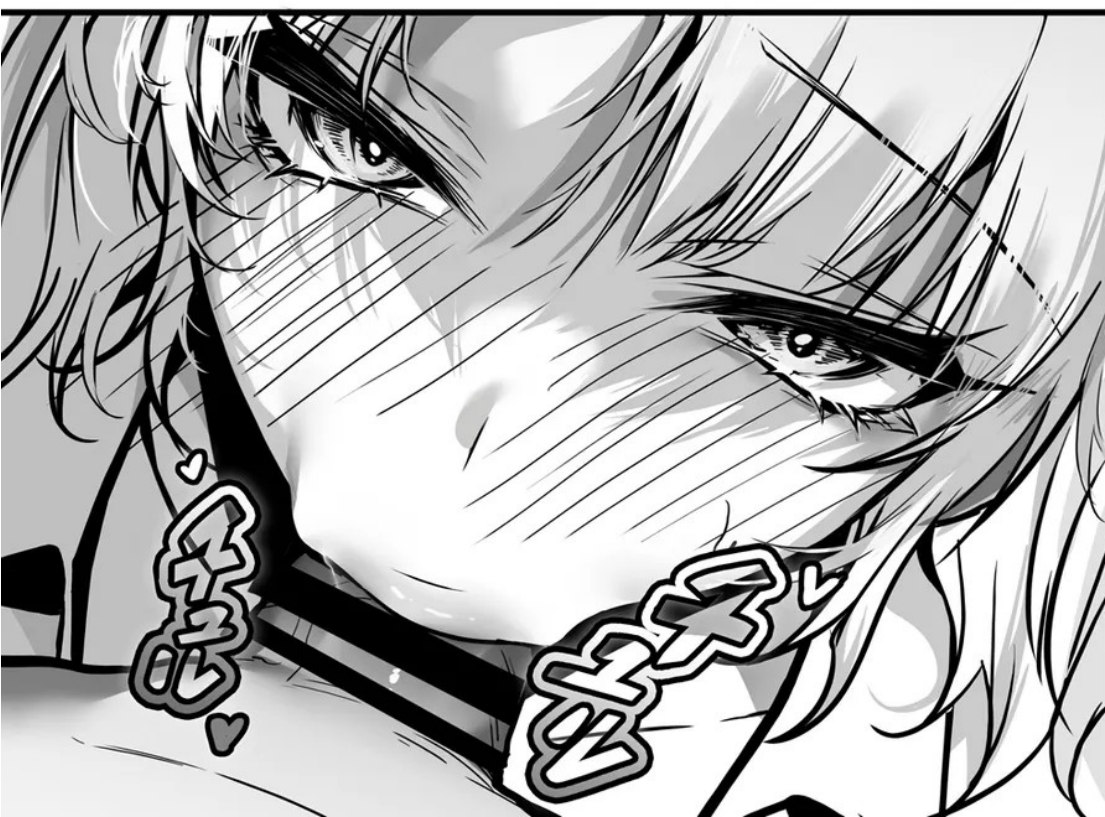
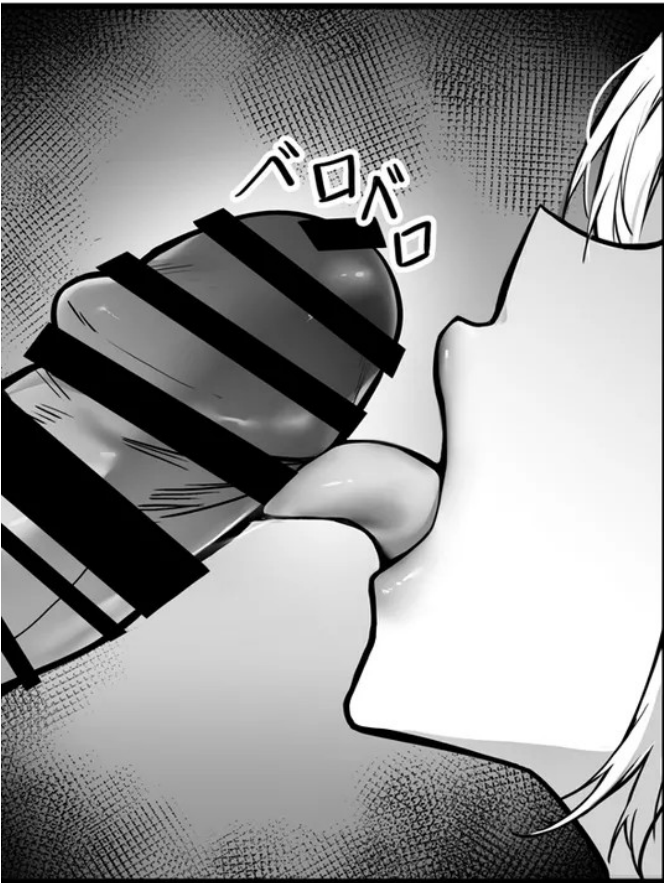
あ……

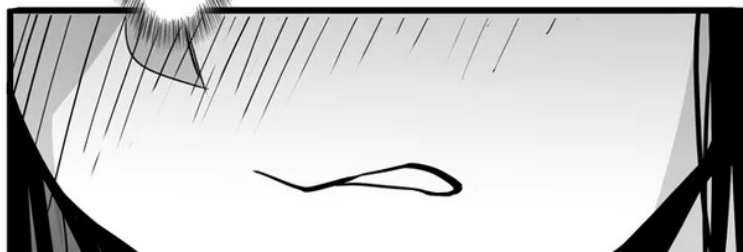
満足させて
あげるよ……















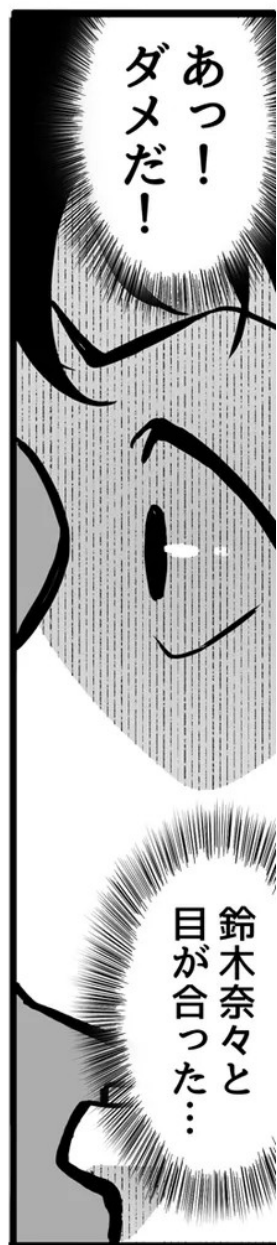


もしかして



俺を見ながら
楽しんでる？

奈々ちゃん
もしかして



あつ！
ダメだ！

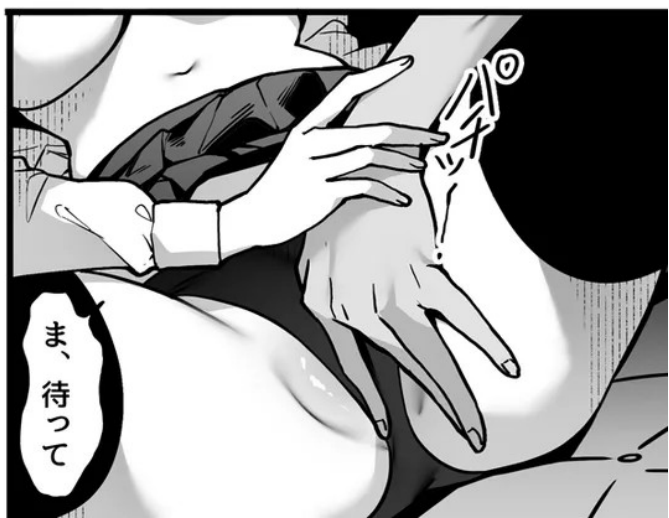
鈴木奈々と
目が合った…



ごめん



？



ま、待って

な、何?!

鈴木奈々が…

俺のことを
気にしてる?

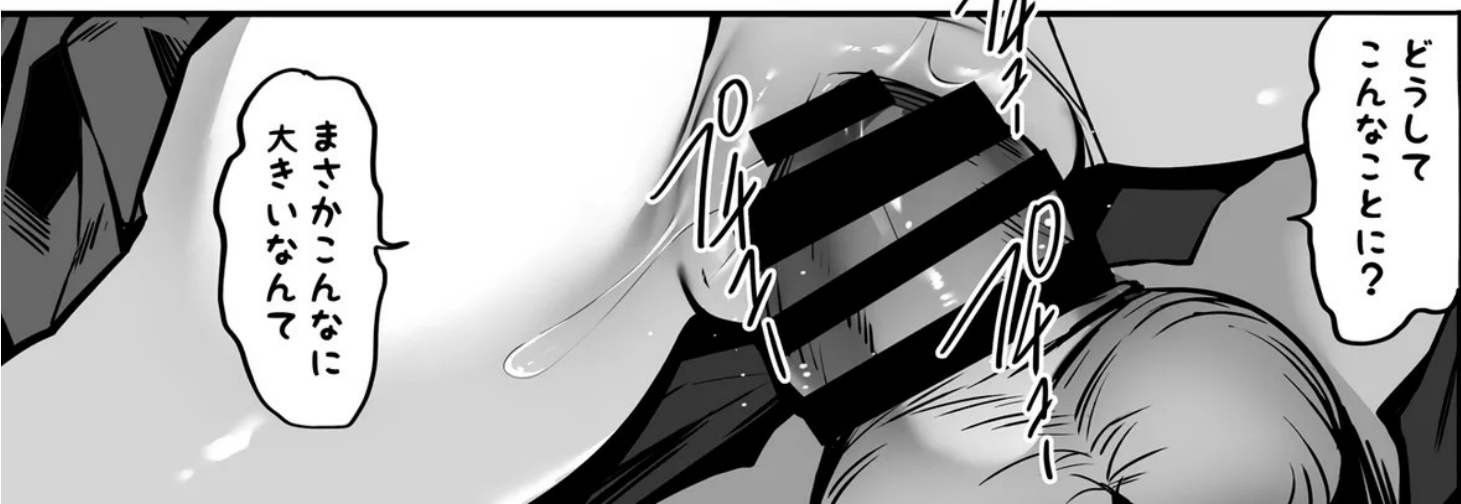
私今は
そんな気分じゃない…

んっ!

どういうこと
急に大きくなった

!







ほんとにすごく
気持ちいい!



あぁっ!

あぁっ!

あぁっ!

あぁっ!



んっ...俺も...
すごく気持ちいい...



はっ、離して

バカ野郎!



痛いつ!



やっ…
やめて！

へへっ、怖がるなよ
そんな乱暴には
しねえって



や、
やめろー！



でも、彼女はもう
先輩のもの

海君だって、奈々と
やりたいんでしょ？

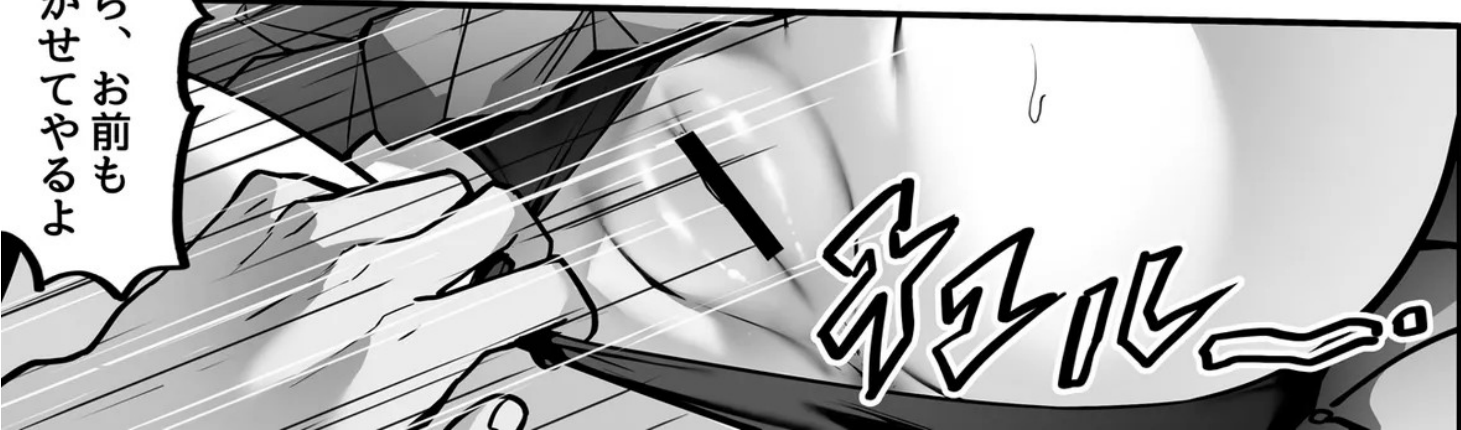
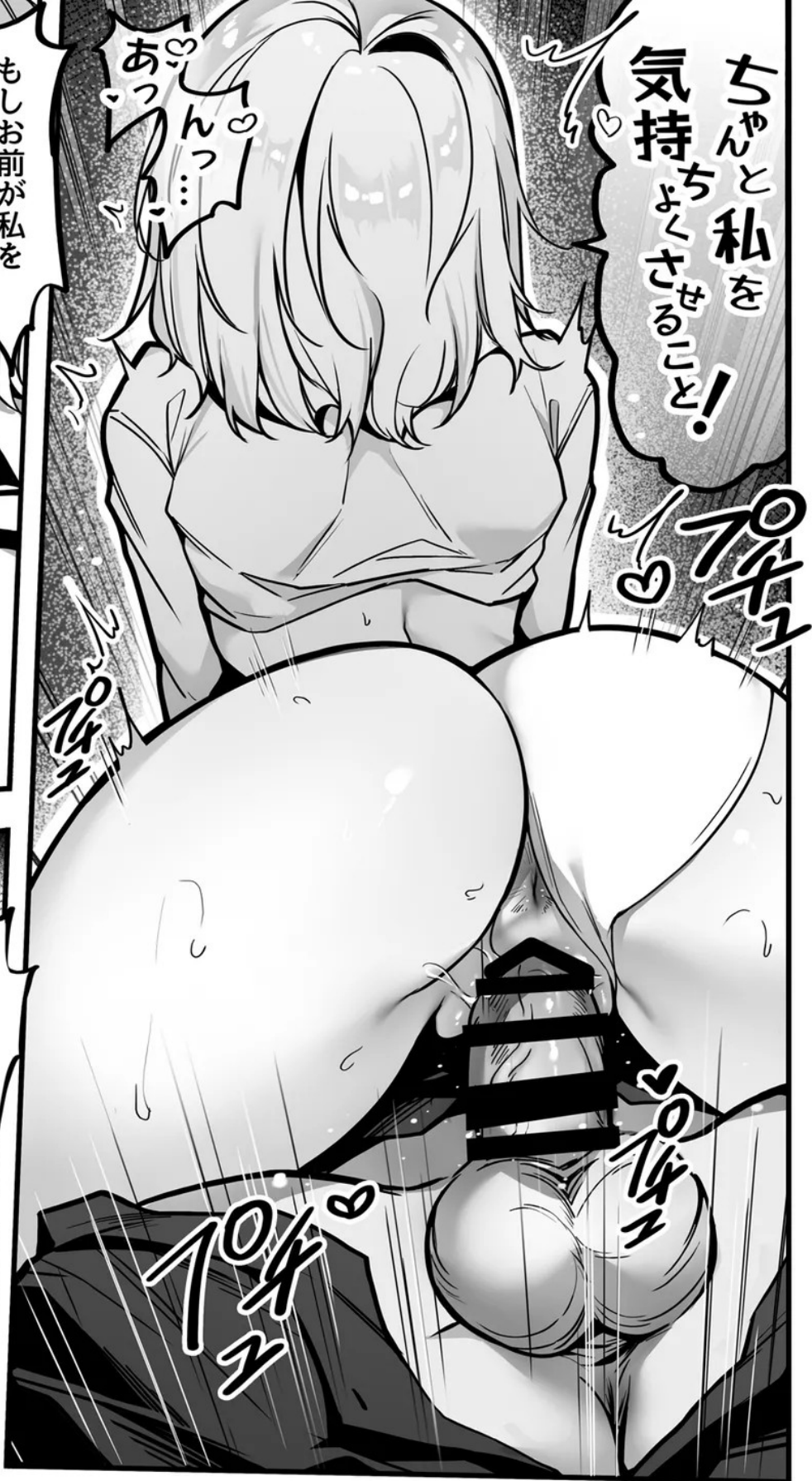
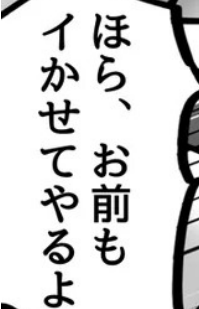


無駄だ！



だから
お前の今の
役目は…

ううっ…





僕が友理さんを
満足させること
ができれば

それでいい
んだよね？

なんだ
って？



いやああッ！

アッ！

あっ♡♡



ああああー

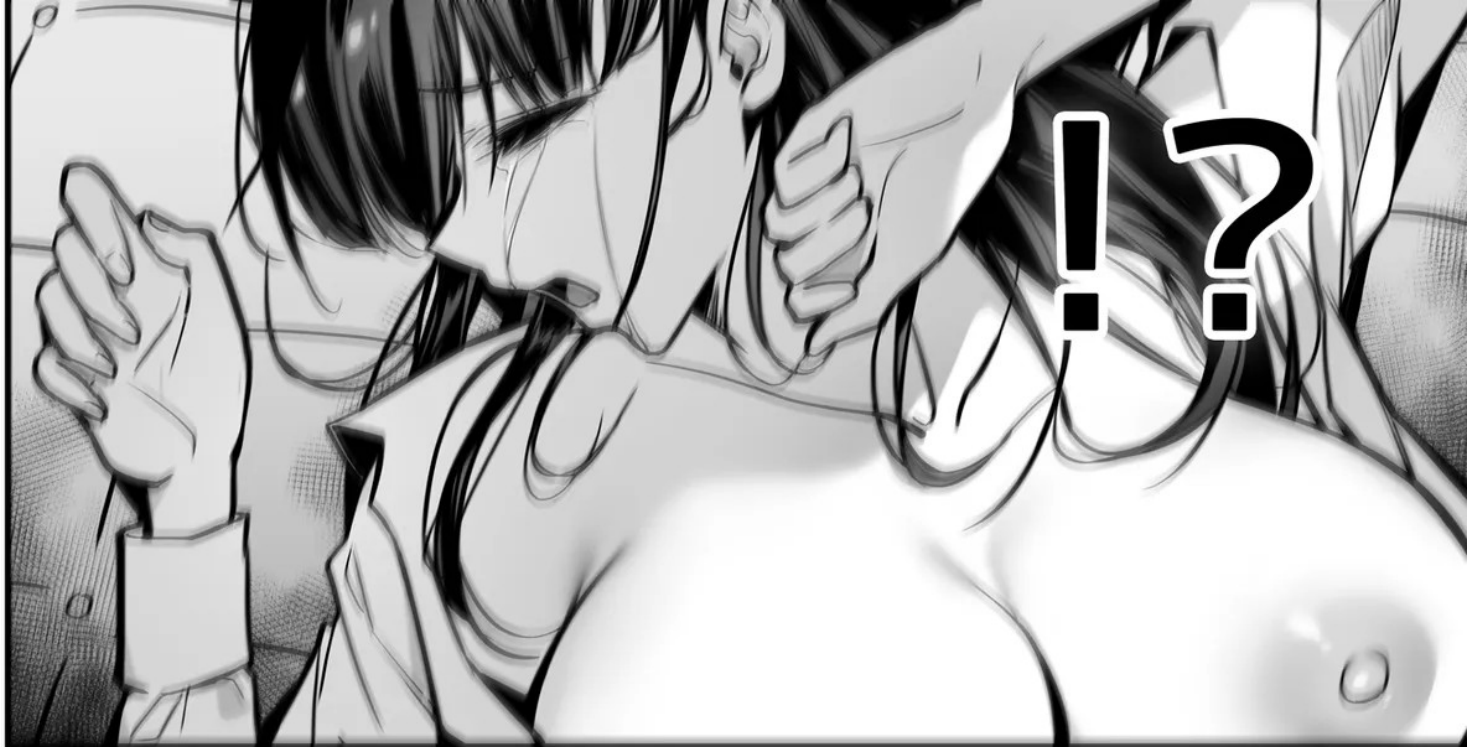
ああああー

ああああー

イ、イっちやうー!!

ああああー





こ、
これは…

この野郎……

すごい気迫だ！

もしや
「春血丸」を
飲んだことと
関係してる
のか？

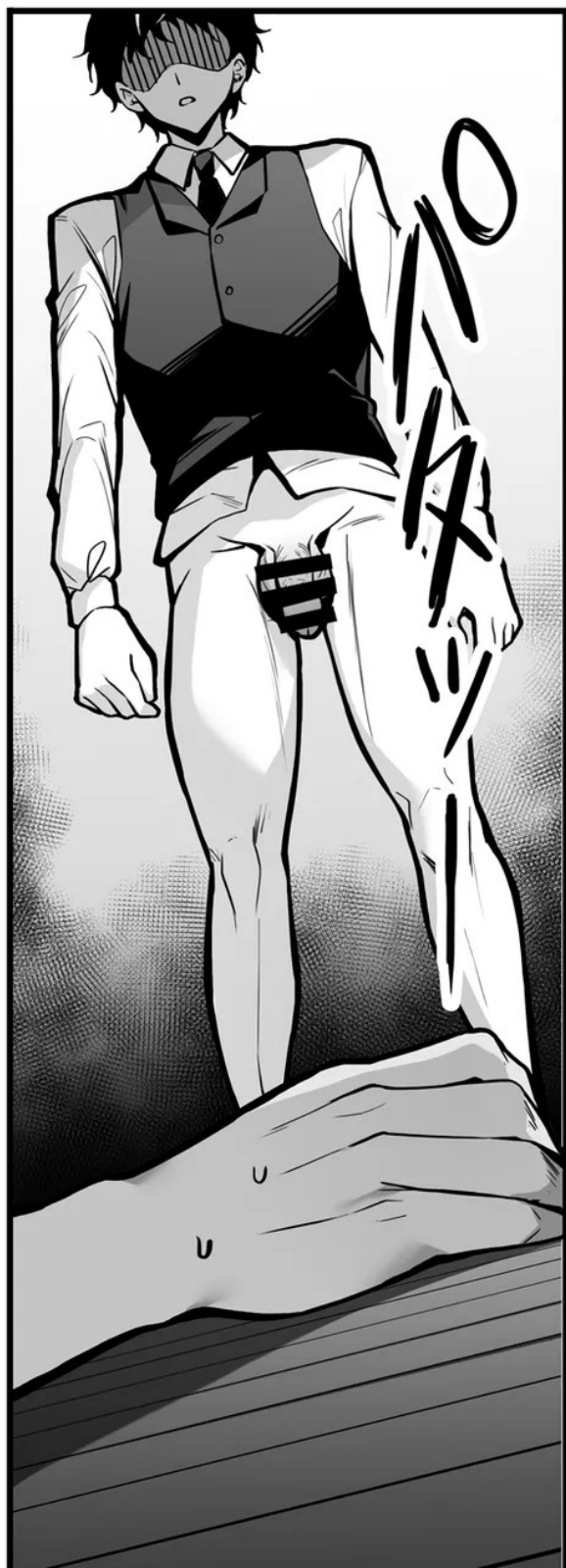
それに
しても
なんで
……

グググ

グググ

パタ

パタ







伊藤君、我慢してるの
っらいでしょ？



あつ！ご
ごめん！

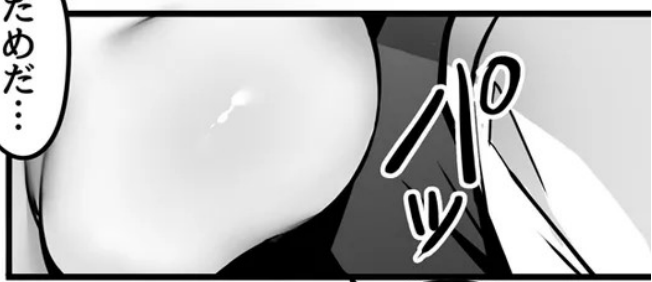
媚薬のせいで
まだ薬が効いてる
みたいだね



んっ…

はあ…さつき
飲んだ媚薬
ほんとに
強烈だな！
さつき抜いた
ばかりなのに…

だめだ…



パッ

私のこと
助けよう
として

無理やり
あの媚薬
飲んだん
でしょ？



伊藤君
あのね…

私経験は
ないけど
こんな私
でも

伊藤君の
役に立てる
かしら？

えっ、
奈々ちゃん

んっ…

いやっ…今の
鈴木さんは
きつと媚薬
の影響も
あるはず
だから……

















んああー

70x1

あー！
あー！
あー！

70x1

70x1

あー！

あー！
あー！

いい、伊藤君
大丈夫？
...

70x1

70x1

70x1

70x1

伊藤君……
どうしたの？

急にこんなに
硬くなつて
ちやつて

あー！

あー！







あっ！

これは…

ジュジュ

♡

♡あー!!!♡



ま、まだ
続けるの？

…

フーッ

もっと激しく
なった

でも…

あっ！

さつきより
痛くないかも

あっ！

ああっ！

ああっ！

なんだか、
ちよっと
気持ちよく
なってきた…

あっ！

あっ！

本当に
気持ちいい…





もっと
欲しい!

もう自分が
誰なのか
忘れそう!

ん
あぁ♡

ん
あぁ♡

ん
あぁ♡

ん
あぁ♡

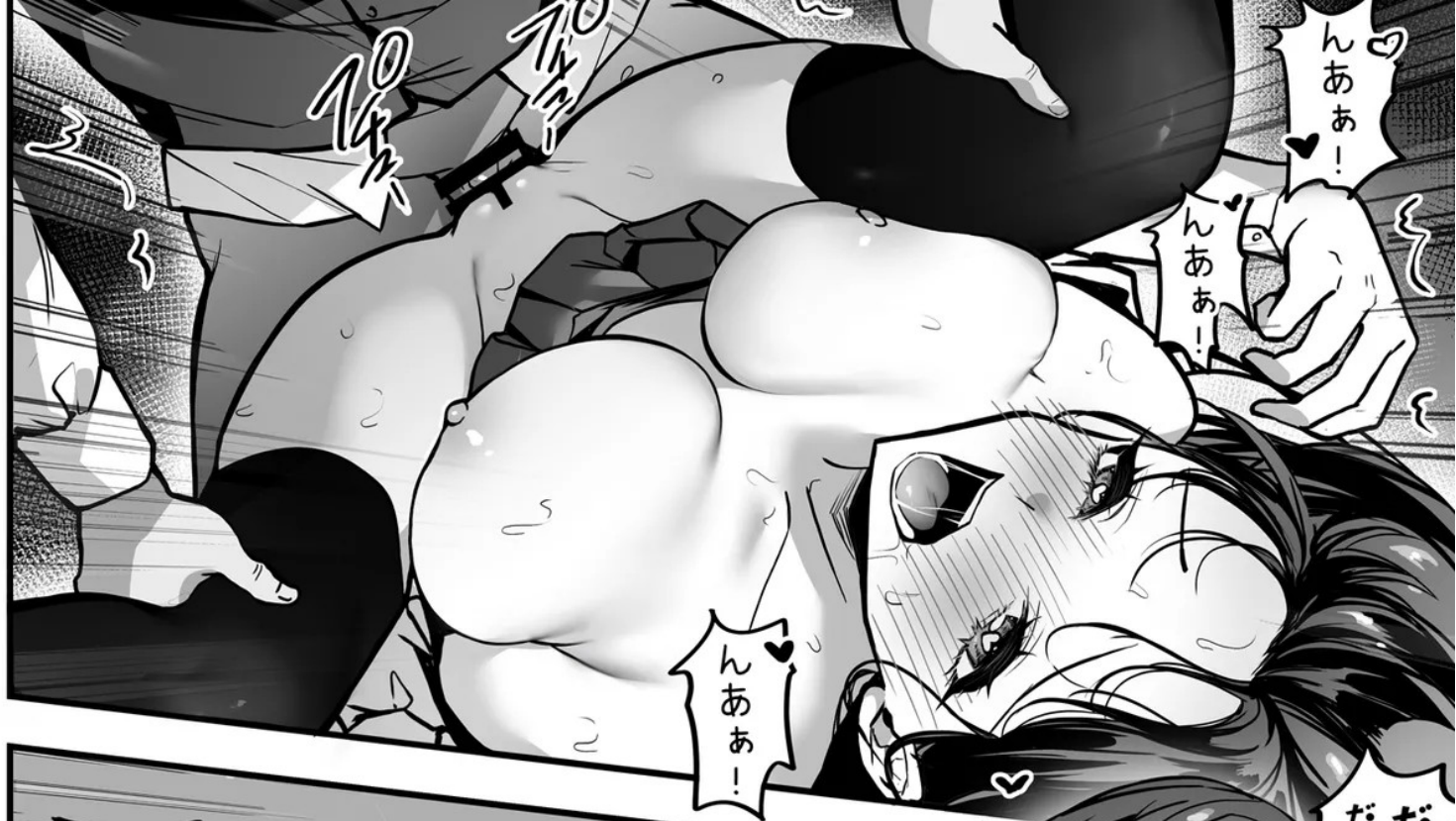
ん
あぁ♡

ん
あぁ♡

ん
あぁ♡

ん
あぁ♡

ん
あぁ♡



んああ！
んああ！

んああ！



だめ…！
だめ…！

うっ
うあ…

もう…
いきそう…！

んああ…
んあああああ——！



あー

あー

70 42

あー

あああああー

70 42







その後
しばらくの間

意外なことに、
田中先輩はもう
俺に絡んでくる
ことはなくむしろ…

ははっ、
お前って本当に
面白いやつだな

それにお前のあの
時の様子である人の
ことを思い出したよ

?

とにかく

あいつにお前を
会わせてみたいな

また会いに
来るよ

……

いったい
どういう
ことだ……

まあ
別にいいか

僕もそんな訳の
分からないことを
考えている
暇はない

今の僕はとにかく
毎日が忙しい

というのも…

ごめんね

今日は少し
遅れちゃった

ギ



伊藤君、
来てくれたのね

ふんっ、今回はもう
こっそり二人で
楽しむなんてダメよ

じゃあ、
始めましょう

あとがき:

昨年末に、もう少し短めの作品を出すつもりでしたが、
気がつけばこんなにページ数が増えてしまいました。
その結果、作品の投稿がここまでずれ込んでしまい、
大変申し訳なく思っております。

今回の作品につきましても、
ぜひ皆様に読んでいただき、
皆様からのご感想をととも
楽しみにしております。

コメントなどで

お聞かせいただけたら
幸いです。

このあとの展開も、
ぜひ楽しみに待っていて下さい！



ゴムゴム